

静岡県東部地域企業経営動向調査(速報)

(2012年10-12月期実績、2013年1-3月期見通し)

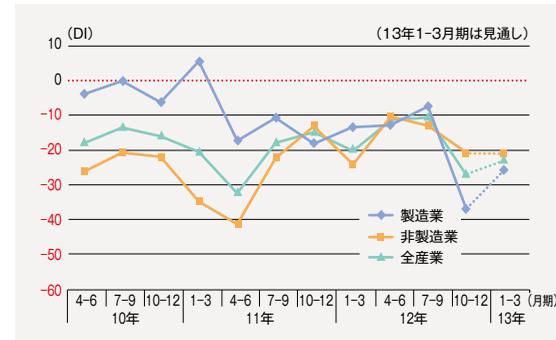
1 業況概要(自社)

全産業でDIが大きく低下、特に製造業の落ち込みが大きい

静岡県東部地域における2012年10-12月期の業況判断DIは、全産業で-27.4(前期-10.3)と大きく低下し、東日本大震災直後の2011年4-6月期(-32.3)に迫る低い水準となった。製造業では食料品や一般機械器具などが低下したことから-37.8(同-6.7)と大きく落ち込んだ。また、非製造業も卸・小売・サービス業を中心に全体で-21.3(同-12.6)と悪化した。低下幅は製造業より小さいものとなった。

2013年1-3月期の予想DIは、全産業で-22.9と今期よりやや上向くものの、依然、低水準にとどまる見通しである。製造業は回復が見込まれるが、非製造業

では横ばいとなっている。



業種別天気図



(2013年1-3月期は見通し)

時期	業況好調 ←				業況不振 →			
	製造業	食料品	紙・パルプ・紙加工品	一般機械器具	非製造業	卸・小売・サービス業	旅館・その他宿泊所	建設業
2012年 7-9月期	☁	☁	☁	☁	☁	☁	☁	☁
2012年 10-12月期	☁	☁	☁	☁	☁	☁	☁	☁
2013年 1-3月期	☁	☁	☁	☁	☁	☁	☁	☁

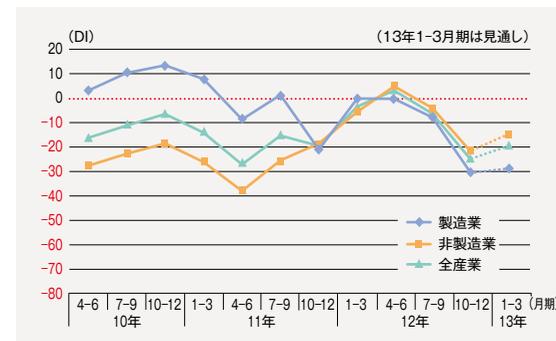
2 売上動向

製造業、非製造業とも大幅な低下

2012年10-12月期の全産業の売上動向DI(対前年同期比)は-26.0(前期-6.3)と20ポイント近い大幅な低下となった。前期に続く低下であり、判断は厳しさを増している。製造業では堅調に推移してきた食料品、一般機械器具、その他製造業が大きく低下したことから、DIは-31.7(同-7.7)と悪化した。一方、非製造業でも旅館・その他宿泊所などの各業種で低下し、DIは-22.7(同-5.4)となっている。

2013年1-3月期の予想DIは、全産業で-20.4と今期比やや上昇に転じている。うち製造業-29.6、非製造業-15.0と、製造業での先行き見通しが厳しい

ものとなっている。



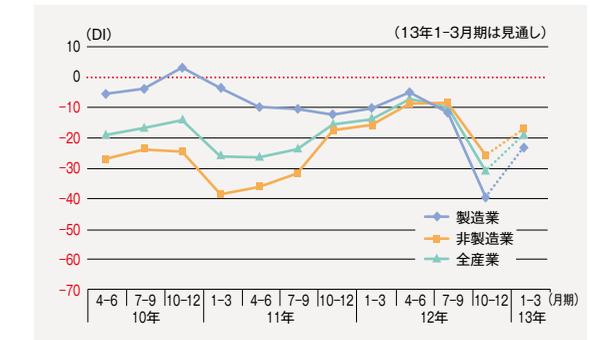
3 利益動向

全産業で大幅に低下、特に製造業での悪化が目立つ

2012年10-12月期の全産業の利益動向DI(対前年同期比)は-31.4(前期-10.0)となり、売上動向DIと同じく大幅に低下している。製造業では食料品、一般機械器具、その他製造業の落ち込みが大きく、全体で-40.2(同-11.5)と悪化した。一方、非製造業においては、建設業は横ばいであったが、旅館・その他宿泊所で大きく低下し、全体で-26.2(同-9.1)となった。

2013年1-3月期の予想DIは、全産業で-19.3と回復が見込まれている。製造業では-23.2と反転への期待感がより強くみられ、非製造業も-17.0と回復

を見込んでいる。



4 経営上の問題点

「受注・売上の停滞・減少」「過当競争・製品安」の回答比率がさらに上昇

前期に続いて1位の「受注・売上の停滞・減少」、2位の「過当競争・製品安」の比率がさらに上昇し、この2項目に回答が集中する傾向が強まっている。特に「受注・売上の停滞・減少」の回答は全体の7割

弱に達し、売上動向に関する懸念が高まっている。一方、これらの影響で、3位以下では順位に若干の変動は見られるものの、8位の「人件費の増加」を除いていずれも回答企業の比率は低下している。

(単位:社、%)

項目	12年4-6月期		12年7-9月期		12年10-12月期		順位変動
	企業	比率	企業	比率	企業	比率	
1. 受注・売上の停滞・減少	161	62.2	178	65.7	154	69.1	→
2. 過当競争・製品安	99	38.2	112	41.3	100	44.8	→
3. 人材の育成	99	38.2	102	37.6	73	32.7	→
4. 生産・販売能力の不足	43	16.6	66	24.4	52	23.3	↑
5. その他経費の増加	57	22.0	59	21.8	43	19.3	↑
6. 従業員の高齢化	61	23.6	69	25.5	41	18.4	↓
7. 原材料・仕入商品の値上がり	70	27.0	47	17.3	35	15.7	→
8. 人件費の増加	40	15.4	37	13.7	32	14.3	→

調査の概要

1. 調査目的 / 静岡県東部地域(富士川以東)の景気動向と先行きを予測し、主要産業の実態を把握
2. 調査対象企業 / 静岡県東部地域に立地する企業1,070社 回答数229(回答率21.4%)
3. 調査方法 / 当研究所の指定した項目につき、記名式で実績と見通しを記入するアンケート調査
4. 調査対象期間 / 実績:2012年10-12月期 見通し:2013年1-3月期
5. 調査時点 / 2012年11月
6. その他 / 本調査は、2012年12月3日時点の集計による速報値に基づいて分析しています。

DI: ディフュージョンインデックス (Diffusion Index) の略。「上昇、増加、好転」した企業割合から「下降、減少、悪化」した企業割合を差し引いたもので、業況判断を見る指標です。

*この他、今回は「2013年の国内景気動向の見通し」についても調査を実施しています。調査結果は弊所ホームページ(<http://www.srgi.or.jp>)をご覧ください。